



3月下旬、日本に一時帰国しており、岐阜市内の神社を参拝した。満開になった桜の写真を、バンコクにいる事務所のタイ人スタッフに送ったところ、「桜が咲いて、とてもきれいです」と返信があった。いつもと変わらぬ平穏な1日を過ごすと思っていたが、それから4時間後、スタッフから「大きな地震があつて、とても怖かった」と連絡が入った。こちらのからの電話がつながらず、取引先の安否などさまざまな不安がよぎった。しばらくして、複数の取引先と連絡が取れ、バンコク北部のアユタヤ県や東部のサムットプラカーン県、チョンブリ県では、「少し揺れたが、工場は稼働している」ことが確認できた。また、スタッフからも「バンコクの生活は余震

防災対策、日本から学ぶ

タイ、地震の爪痕なお

に警戒しながらもほとんど元に戻った」との報告を受けた。私は4月上旬にバンコクに戻ったが、地震の影響は想像以上で、事務所や自宅内でひび割れが発生していた。補修には時間がかかるが、大事に至らなかったことに安堵（あんど）した。

これまで、タイに進出や投資を検討する取引先に、「雨季にチャオプラヤ川の氾濫で洪水が発生するが、大きな浸水被害もなく台風や地震はほとんどない」と説明してきたが、今回のような隣国ミャンマーでの地震を受けて、今後は自然災害のリスクを伝えるべきだと痛感した。

地震発生から半月余りが経過した12日、タイの伝統的な祭り「ソンクラン」が始まった。街はソクランを祝うべく、カラフルな花

柄のシャツを着て、水鉄砲を持ち歩くタイ人や外国人観光客でにぎわっていた。タイの経済をけん引するのは観光産業である。建設中のビルは崩落したが、観光産業の



復旧が待たれる崩落現場＝タイ・バンコク市内

柱は崩れてはならない。一方で、地震で崩落した現場では、救出されていない人を待つ家族がいることを忘れてはいけない。

崩落した建物について、鉄筋の強度を問題視する報道が流れる中、地震が多い日本の「緊急地震速報」の導入について、タイ政府が日本大使館に問い合わせているという。日本は自然災害が多く、過去何度となく苦い経験をしている。その日本が開発する防災関連の商品や技術は、自然災害の少ないタイにとって学ぶべきところは多い。

今後、日本がタイに対し、災害に備えることの必要性を伝えることで、タイでの防災対策への取り組みが進み、一人でも多くの人命が守られることを願うばかりである。今回、まさかと思われたタイでの地震被害を受けて、私自身もタイに駐在する立場から、災害への備えを伝えていきたい。（岐阜信用金庫バンコク駐在員事務所長 高橋英孝）